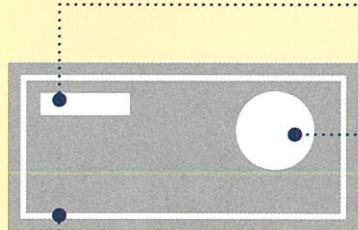




オリジナルのお札を作ってみよう

お札の文字・かたち・色の展示の各コーナーにあるスタンプを押してね。



- STEP 1 金額を決めよう!**
気に入った数字のスタンプで、お札の金額を決めよう!
- STEP 2 お札の顔を選ぼう!**
(スタンプは3種類あります。)気に入ったスタンプをひとつ押してもよし、好きなだけ好きな場所に押してもOK!
- STEP 3 枠(の色)を決めよう!**
最後にイメージに合う(色の)枠を押すとオリジナルのお札が完成するよ!

お札と切手の博物館

【参考文献】

- ・第2回教育展—京都教育大学蔵 古紙幣の世界—「おかね」の歴史とデザイン解説書 中村翼 令和2年11月 京都教育大学教育資料館発行
- ・「図録 お札と切手の博物館」大蔵省印刷局博物館編集発行 平成9年1月
- ・『日本のお金』大蔵省印刷局編集発行 平成6年6月



2026年
7月22日(水)～
8月30日(日)

発行日 令和8年7月22日
編集・発行 独立行政法人国立印刷局 お札と切手の博物館
〒114-0002 東京都北区王子1丁目6-1
TEL 03-5390-5194
本書掲載の内容を許可なく複写、複製、転載することを禁じます。

令和8年度企画展

お札の豆図鑑

一文・かたち・色



独立行政法人国立印刷局
お札と切手の博物館
Banknote and Postage Stamp Museum



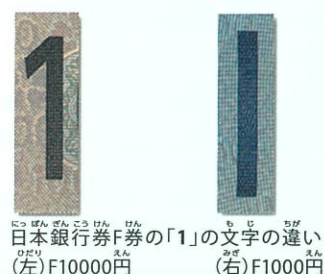
展覧会をご覧いただく前に

お札の正式な名前を「日本銀行券」と言います。日本銀行券は発行順を示すため、ABCの呼び名で券種を区別しています。現在のお札は、戦後6番目に発行されたので「F券」と呼ばれます。みなさんのお財布に入っているほとんどが、この

日本銀行券F券の文字

みなさんの手もとにあるF券を眺めて下さい。3券種に共通しているのは、これまでのお札に比べると、中央に印刷された額面の数字が大きくなっていること、数字は漢字ではなく、アラビア数字になっていることに気づきます。これはユニバーサルデザインのひとつで、どの国の人でも、お札をすぐに判別できるようにするためです。

そして、10000円券と1000円券の文字の違い、数字が白抜きになっていることもF券の文字の特徴です。 ※白抜きについては下の図の青囲みを見比べて下さい。



日本銀行券F券の「1」の文字の違い
(左)F10000円 (右)F1000円

F券のかたち

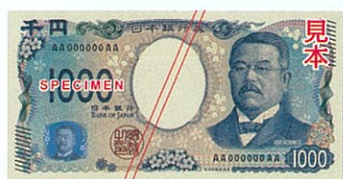
現在のお札の肖像は、10000円券は実業家の渋沢栄一、5000円券は教育者の津田梅子、1000円券は細菌学者の北里柴三郎が採用されました。一つ前のE券では、それぞれ福沢諭吉、樋口一葉、野口英世でした。このように、最近のお札の肖像に選ばれる人物は、写真などが残っていること、お札の肖像にふさわしい、優れた実績や社会への貢献が重視され、明治時代に活躍した文化人が選ばれる傾向にあります。



日本銀行券F10000円券 令和6 (2024)年



日本銀行券F5000円券 令和6 (2024)年



日本銀行券F1000円券 令和6 (2024)年



日本銀行券E10000円券 平成16 (2004)年



日本銀行券E5000円券 平成16 (2004)年



日本銀行券E1000円券 平成16 (2004)年

F券の色

さて、ここで改めてF券を眺めてください。それぞれのお札は何色ですか？ 10000円券は茶、5000円券は紫、1000円券は青ですね。このような色分けは、これまでのお札の色味をベースにし、さらに1000円券の中央部分にはだいたい色を配置しグラデーションをつけることで、5000円券との見え方が異なるようになっています。

F券には新しい文字・かたち・色のデザインや工夫がありますね。その元をたどると、むかしのお札も同じであったことが見えてきます。つぎに、そのはじまりを見てみましょう。

お札の文字

日本最古のお札は17世紀初頭、伊勢国(現在の三重県)山田の商人たちによって使用された山田羽書です。

詳しく見ていきましょう。

山田羽書銀2分の表面には、

①額面として「貳分預」と書かれています。銀2分の価値があるという意味です。

②の丸井甚八とは、この羽書の製造業務の中心となった人物の名前を示しています。

③と④には、「此羽書以六拾四匁無 異議金壹両渡可」と書かれています。

この羽書で異議無く金1両を渡すの意味です。

このように山田羽書には、額面のほか、製造の中心人物、銀貨等への交換を保証する一文などが印刷されています。日本銀行券F券と比べてみると、昔のお札には文字がたくさんあることが分かります。



山田羽書銀2分預
江戸時代

F券ではないでしょうか。普段何気なく使っているお札ですが、昔からの伝統を引き継ぐデザインや、新しく取り入れられた技術など、よく見ると、お札には小さな発見がたくさんあります。さっそく、探してみましょう。

お札のかたち

山田羽書を参考にして発行されたのが藩札です。藩札とは、大名が幕府の許可を取り発行したお札のことで、基本的にその大名が治める領土内で流通した地域通貨を指します。

藩札のかたちと現在のお札のそれと、異なるのはどこでしょうか？

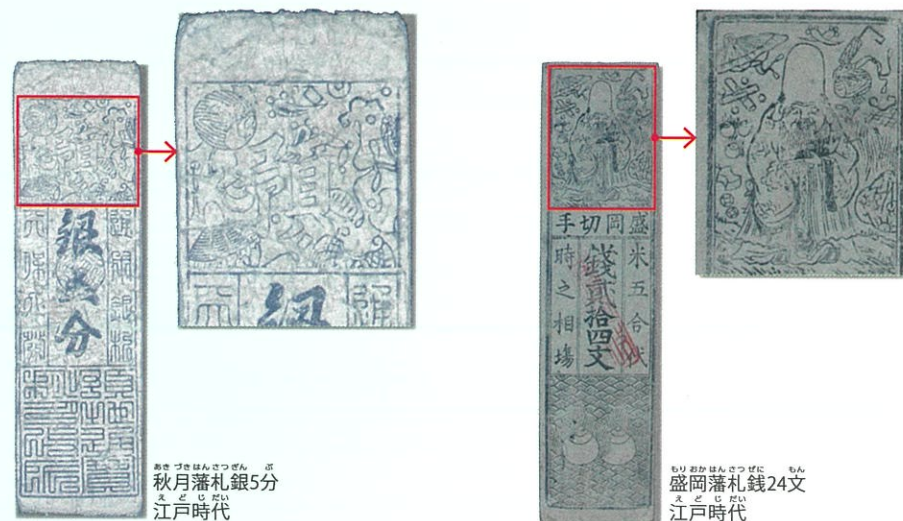
そうです。縦型と横型の違いがあります。藩札は山田羽書と同じ縦型でした。現在のお札は横型ですね。日本国内で初めて製造された近代的なお札は、国立銀行紙幣(新券)1円券で、最初の横型のお札です。ここから、現在のお札の「かたち」が定まったと考えてよいでしょう。

さて、令和4年に新しいお札が発行されることが決まった時、多くの人が「お札の肖像は誰になるのだろうか？」と考えたのではないのでしょうか。

これまで見てきた藩札にも、肖像の前身と呼べるアイテムがありました。

秋月藩札銀5分では、上部には打ち出の小槌など宝尽くし模様が描かれ、盛岡藩札銀24文では福祿寿が見られます。藩札にはこのような縁起物、七福神、ほかにも鳳凰や麒麟、龍などの想像上の生き物や鶴亀などが印刷されました。

お札に人物の肖像が初めて採用されたのは、明治14年に発行された改造紙幣1円券からです。



秋月藩札銀5分
江戸時代

盛岡藩札銀24文
江戸時代



国立銀行紙幣(新券)1円券
明治10 (1877)年
日本で初めて製造された近代的なお札



改造紙幣1円券
明治14 (1881)年
初めて人物が肖像に採用されたお札

お札の色

日本銀行券E券とF券各3券種はベースカラーが認められるお札ですが、日本最古のお札とされる山田羽書でも、このような色分けがすでに採用されていました。

元文5 (1740)年以降に発行された山田羽書から、金額によって色を変えて製造していたことが明らかになっています。銀1匁、銀2分、銀3分、銀5分、の各山田羽書には、それぞれ、白、黄、赤、青と色の決まりがありました。

江戸時代に誕生したお札にある、実用性を備えた色分けの工夫は、かたちを変えながら現代のお札へと引き継がれていると言えるでしょう。



山田羽書 銀1匁 銀3分 銀5分